

(1) 景観の現況と特性

※大阪市景観計画、大阪のまちづくり一きのう・今日・あす—より

○臨海部の市街地形成の経緯

在来臨海部の形成と貿易港としての発展

埋立により市域の大部分を築いてきた大阪ですが、現在の臨海部は明治中期以降に形成されたものです。大洪水を契機とし、「商都大阪の命脈は港にあり」とする近代港建設をめざす市民の声は次第に高まり、川幅 550~800m に及ぶ新淀川の開削事業が行われました。これにより、旧淀川（現在の大川~安治川）からの土砂堆積の心配がなくなり、従来までの川口港に代わり、安治川と木津川の河口に新たに港を建設する築港事業が 1897（明治 30）年から進められました。この大事業により、大阪は近代港をもつ国際都市としてさらなる発展を遂げました。

また、第二次世界大戦での被害が極めて大きかった大阪港ですが、「大阪市の復興は港から」を合言葉に、1947（昭和 22）年からの大阪港復興計画によりみごとに復興を遂げ、工業を中心とした多数の産業が集積しました。

さらに、1950（昭和 25）年のジェーン台風や 1961（昭和 36）年の第 2 室戸台風の教訓を踏まえ、防潮堤の造成や盛土による総合的な高潮対策が進められました。これにより、大規模な浸水被害はなくなりました。

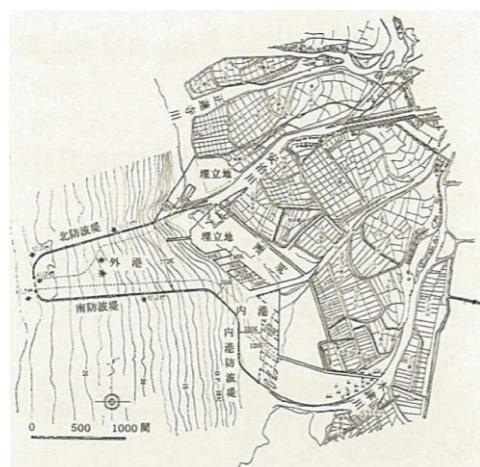
この際に立てられた大阪港修築計画では、安治川・尻無川の河川拡幅による大阪港の「内港化」が行われ、港湾施設の近代化と都心からの距離の短縮が図られました。

新臨海部の形成と大阪港の多機能化

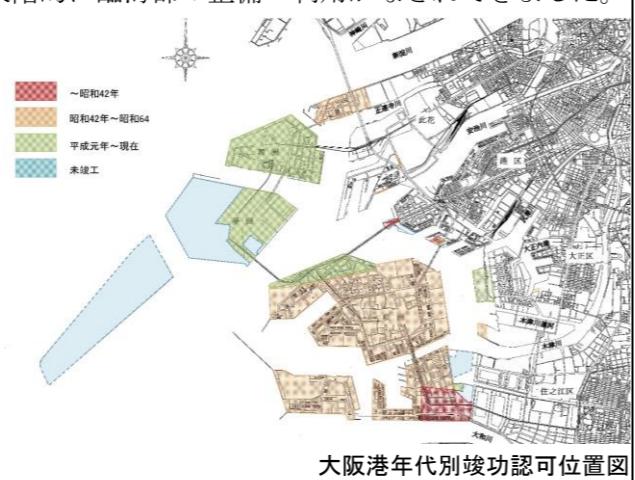
1958（昭和 33）年からの咲洲の埋立を皮切りに、臨海工業用地として新臨海部（北港・南港）開発が始まり、再び大阪港の「外港化」が進められました。1967（昭和 42）年以降は、主目的を国外との貿易にシフトするなど、ニーズや社会情勢に応じ、段階的に臨海部の整備・利用がなされてきました。

さらに、大阪港は、その利便性を向上させるべく、フェリーターミナル・コンテナターミナルや、鉄道・道路・橋梁といった港湾施設や基盤施設にとどまらず、レクリエーション施設や国際交流施設、ニュータウンなど利用を多岐に広げてきました。

この様な経緯により、大阪の臨海部では、現在の入り組んだ海岸線が形成され、対岸の建物が見渡せるなど、大阪港ならではの景観が形成されるとともに、多様な表情を持つ海辺のまちなみが生み出されました。



大阪市築港計画図 (1896 (明治 29) 年時点)
【出典：おおさかのまちづくり】



(2) 主要な景観資源

ベイエリアにおいては、現在登録している都市景観資源のほか、港らしい自然の要素や大規模な工作物等を主要な景観資源とする。

○…登録している都市景観資源

主要な景観資源		概要
○	港大橋	工作物
昭和 49 年 (1974 年) に完成した最大支間長 510m のダブルデッキ形式のゲルバートラス橋で、阪神高速道路に架けられた橋の中で最も長い支間長を持ち、トラス橋としては世界第 3 位 (H15 時点) の規模を誇っている。また、橋下を 4 万トン級の大型コンテナ船が航行できるよう、海面から桁下までは 50m 以上の空間が確保されている。そのスケールや色彩、重量感から、大阪港のランドマークになっている。		
○	築港赤レンガ倉庫	建築物
築港赤レンガ倉庫は、大正 12 年 (1923 年) に、住友倉庫により岸壁の整備にあわせ、船の積み荷を保管する港湾倉庫として建設されたものであり、港区では空襲にも焼け残った数少ない建造物である。平成 19 年 (2007 年) に大阪市に移管された後、民間事業者の募集を経て平成 27 年 (2015 年) 6 月から当時の併まいを残しながらクラシックカーミュージアムや飲食店として活用されている。		
○	天満屋ビル	建築物
昭和 10 年 (1935 年) 建築。当初は、天満屋回漕店の事務所兼住宅だった。茶褐色のスクラッチタイル、角に取られた大きなアール、丸窓を置いたモダンなデザインが印象的な建築物。現在も飲食店等に利用されている。		
○	此花大橋	工作物
此花大橋は、此花区北港(既成市街地)と、舞洲(まいしま)(人工島)を結ぶ橋として平成 2 年 (1990 年) に完成した、全長 1.7km の長大橋である。主橋部は、世界でも珍しいモノケーブル自碇式吊橋 (主径間 300m) と呼ばれる形式で、1 本のメインケーブルによって橋桁を吊り下している構造となっている。此花大橋の名前は、此花区のシンボルとなる橋として、市民に親しまれるように命名された橋で、橋上からの眺望はすばらしく、大阪港を代表する橋の一つである。本橋は平成 2 年の土木学会田中賞を受賞している。		
○	舞洲工場・舞洲スラッジセンター	建築物
港から舞洲へ此花大橋を渡ると、一際目立つ建物が 2 つ見える。左側に見えるのが舞洲工場である。舞洲工場は、焼却設備と粗大ごみ処理設備が併設され、最新の公害防止施設の採用や最大限の余熱利用を行っている。右側に見える舞洲スラッジセンターは、下水汚泥を効率的に集中処理する施設である。この建物や煙突などの外観デザインは、環境保護芸術家として世界的に著名なフリーデンスライヒ・フンデルトヴァッサー氏が担当し、外壁や屋上に木々を取り入れ自然との調和を図り、全体として「技術とエコロジーと芸術の調和」を表している。		
○	新夕陽ヶ丘	公共施設
舞洲スポーツアーランドにある新夕陽ヶ丘には白い屋根の展望台があり、小高い丘の上からは舞洲や大阪港ベイエリアが見渡せる。空気の澄んだ日は、遠く淡路島や明石海峡大橋も見える。また、丘からは日本夕陽百選にも選定されたすばらしい夕陽を見ることができる。		
○	野鳥園臨港緑地	公共施設
日本における渡り鳥の重要な生息地であった大阪湾岸一帯に生息する野鳥の保護を目的に設置された。総面積は 19.3ha で、園内には、海が展望できる丘や林、干潮時に人工干潟になる西池のほか、八角形の屋根を持つ展望塔が整備されている。		
○	南港オズ岸壁と大阪南港フェリーターミナル	公共施設
アジア太平洋トレードセンターの一部であるオズの岸壁は大阪市の帆船「あこがれ」の乗船場所となっている。その西北側の大阪南港フェリーターミナルは愛媛や北九州を結ぶ大型フェリーが就航しており、多くの船を眺めることができる。		
夕陽	自然	ベイエリアでは、大阪港に沈む夕陽を目前に眺めることができ、夕陽に染まる空の移りゆく変化が楽しめる、舞洲スポーツアーランドにある新夕陽ヶ丘においては、空気の澄んだ日は遠く淡路島や明石海峡大橋も見え、日本夕陽百選にも選定されたすばらしい夕陽を見ることができる。
天保山大橋	工作物	天保山大橋は安治川の河口にかかる橋で、阪神高速道路の一部として、港区築港と此花区桜島を結んでいる。大型船舶が航行するため、海面からの高さは 45m、主塔の高さは 152m が確保されている。日本有数の斜張橋で、保守点検などのため、主塔にエレベーターが設置されている世界的にも珍しい橋である。
夢舞大橋	工作物	夢舞大橋は、舞洲と夢洲を結ぶための交通アクセスの充実に重要な役割を果たす橋である。また、本橋は可動橋としては世界初のアーチ形旋回式浮体橋で、大阪港の主航路が使用できなくなった場合でも、大型船舶が航行できるように、橋の一部が可動する。

(3) 主要な視点場

＜視点場の着眼点＞

主要な視点場の設定にあたって、留意すべき景観特性は次のとおりとする。

○対岸から望む特徴的なスカイライン

- 入り組んだ海岸線を有するベイエリアにおいては、海辺のまちなみや景観資源を対岸から望むことができる視点場が多数あり、大規模で個性的な建築物や橋梁による特徴的なスカイラインを望むことができる。
- 特に夜間においては、まちなみが水面に映えるとともに、まとまった明りが浮かび上がる印象的な景観の演出が可能である。



○高所から望む海岸線と大規模な建造物が織り成す俯瞰景

- 大阪府咲洲庁舎などのビルの高層階からは、ベイエリアが一望される。
- 海岸線と大規模な建造物による奥行きを感じさせる大景観を望む視点場の整備が可能である。



○“港”を感じさせる特徴的な景観資源

- 近景においては、一般の市街地とは異なるスケール感や港を感じさせるデザインの建築物等、地域の海運や港にまつわる個別資源が景観を特徴付けていている。
- 中遠景においては、大規模でそれぞれに個性のある長大橋が、ベイエリアならではの景観の演出が可能である。



○航路の船上から見たシークエンス景観

- 航路上の船上からは、船の移動とともに水面に浮かぶ市街地が視界の両側に連続的に変化するシークエンス景観を望むことができる。
- 海の玄関口としてゲート性を感じさせる景観の演出が可能である。



＜視点場の設定＞

主要な視点場の設定にあたっては、人々が集い、見渡せる・見通せる場所である公共空間から選定し、建築物等の誘導を図ることを目的とする視点場と普及啓発を図ることを目的とする視点場に分けて整理する。

①建築物等の誘導を図る主要な視点場

大型クルーズ船などの船上から見る海辺の眺めや、水面越しに見る対岸のまちなみを中遠景に望む視点場を設定し、海の玄関口を印象づける景観形成を図るために建築物等を誘導する。

なお、視点場から中遠景に捉える景観資源がある場合は、それらの見え方についても配慮を求め、港らしい大スケールなパノラマ景観の形成をめざす。

②普及啓発を図る主要な視点場

都心部や一般的な市街地とは異なる大スケールなパノラマ景観を形成する港らしい大規模な橋梁や港湾構造物などの眺めや、特徴的な景観資源となっている夕陽を見るフォトジェニックな視点場を設定し、多様な表情を持つ海辺の魅力を情報発信する。

主要な視点場	①建築物等の誘導		②普及啓発
	対象となるエリア	配慮すべき主要な景観資源	
① 新夕陽ヶ丘	—		● 夕陽
② シーサイドプロムナード（舞洲）	● 夢洲	夕陽 夢舞大橋	● 夕陽 夢舞大橋
③ ダイヤモンドポイント（築港・天保山）	● コスモスクエア 夢洲	夕陽 港大橋	● 夕陽 港大橋
④ サンセット広場（築港・天保山）	—		● 夕陽
⑤ 天保山大観覧車	—		● 海辺のまちなみ
⑥ 天保山公園	—		● 天保山大橋
⑦ 赤レンガ倉庫横広場	—		● 築港赤レンガ倉庫
⑧ プロムナード（築港・天保山）	● コスモスクエア	港大橋	● 港大橋
⑨ シーサイドコスモ（咲洲）	● 築港・天保山 舞洲 夢洲	夕陽 夢舞大橋 此花大橋 天保山大橋	● 夕陽
⑩ 大阪府咲洲庁舎展望台	● 築港・天保山 舞洲 夢洲	夢舞大橋 此花大橋 天保山大橋 港大橋	● 海辺のまちなみ
⑪ O s 岸壁	—		● 南港オーバーポート岸壁と大阪南港フェリーターミナル
⑫ 船上	● コスモスクエア 夢洲	野鳥園臨港緑地	—
⑬ 船上	● コスモスクエア 築港・天保山 舞洲 夢洲	夢舞大橋 此花大橋 天保山大橋 港大橋 野鳥園臨港緑地	● 海辺のまちなみ

<主要な視点場の位置図>



● ● ● : 大型船航路
★ : 景観資源